

高齢者 健康寿命延ばそう

弘前 8年目いきいき健診



いきいき健診で指先の器用さなどを調べる市民ら

認知症の予防法を確立し、市民の健康寿命を延ばそうと、2016年度から始まった弘前大学と弘前市による「いきいき健診」の本年度の取り組みが24日、同市の岩木文化センターあそべーるで始まった。高齢者の味覚や記憶力、指先の器用さなどを10年間にわたり追跡調査するもので8年目を迎えた。30日までの7日間、約700人の市民が

参加する。

弘大、九州大など全国八つの拠点が参画する研究事業の一環で、市の高齢者健診を兼ねている。16年度に65歳以上だった人を対象に、同じ人の健康状態を隔年で調べる。本年度は、17年度から参加している人の4回目の健診となる。

参加者は約20のブースを2時間ほどかけて回り、脳や血液、歯など全身の健康

状態をチェックした。健診を受けた太田エツ子さん（75）は「無料で受けられるのがいいなと思って参加している。年を追うごとに記憶力の衰えを感じるけれ

ど、まだ大丈夫そう。結果を見て食事の味の濃さなどに気をつけるようにしたい」と話した。

弘大医学部付属健康未来イノベーションセンターの

三上達也センター長は「これだけ長期的な大規模調査は他にない。生活に生かせる具体的な対策につながっていけば」と展望を語った。

（伊藤ほなみ）